



コミュニティ・スクールのチャレンジは続く…

湖南高等学校の実践 PART2

新年、明けましておめでとうございます。今年も、県中域内の地域連携促進に向け、温かい御支援と御協力をよろしく申し上げます。さて、以前、湖南高等学校の取組について御紹介しましたが、今回のけんちゅう with 第9号ではその後の湖南高等学校の実践についてお伝えしたいと思います。

コミュニティ・スクール企画「蕎麦プロジェクト」収穫祭を行いました！

無事収穫した蕎麦は、石臼で挽いてそば粉にしました。地域の方によるオリジナルの「湖南蕎麦口上」のお披露目もありました。3学期には「蕎麦レシピコンテスト」を行い商品化に向けた試食会も実施します。



福良地区「地域づくりマップ」を作成しています

県中建設事務所員が来校し、生徒会役員・1年生有志が参加してマップづくりの合同ワークショップを実施しました。行政と学校と一緒に湖南町を盛り上げていこうとするものです。今後、湖南町の観光資源をもとに、デザインや内容の検討を重ねていく予定です。完成が楽しみです。

“イチ”からカレーを作りました

食器は竹で、主食は蕎麦、野菜は手作りです。油は米ぬか油、肉はウチダザリガニを。スパイスとなるコリアンダー、レッドペッパー、サフランは自家栽培と、徹頭徹尾、自分たちの力でつくりました。



～生徒の感想から 湖南高等学校の取組の価値が見えてきます～

- 正直、口に合わなかった。しかし、カレーをイチから作ることはとても難しいと感じた。自分たちでいろいろ調べて、食材を確保し、頑張れたと思う。温泉水から塩を作るまでに時間がかかったが、来年の活動に生かしたい。今回の活動で、食に興味を持てた。そして、食を大切にしようと思った。
- 半年以上かけて作ったカレーは、やっぱり初めて作ったので、すごくおいしい訳ではなかった。でも、みんなで協力して作ったカレーは、とても優しい味がした。ザリガニを捕ったり殻をむいたりするのが大変だったことが記憶に残っている。また、学校でこういう企画があったらいいなと思った。

子どもの思いや願いをきっかけに地域人材を活用した総合的な学習の実践

田村市立要田小学校「要田ハッピーベジタブルプロジェクト」



要田小学校の5、6年生は、新型コロナウイルス感染症防止の影響で売り上げが落ち込んでいる農家や飲食店を応援しようと、地元産ピーマンの販売やオリジナルメニュー作りによる地域活性化プロジェクトに取り組みました。

農家さんへのインタビューから収穫体験、ピーマンを使ったメニュー開発、試食会の開催に向けて、地域の人材を活用したダイナミックな活動が展開されています。

子どもの思いや願いをつないで、地域人材を活用した総合的な学習の実践について一部御紹介します。



広報作戦会議！

より多くのことを知ってもらうため、レストランのマネージャーさんとともに広報作戦を考え、実行しました。



ふくしまFMの取材を受ける！

取材を受けるのと同時に、FMアナウンサーからインタビューのプロとしての聞くコツ、話すコツ等を教えてもらいました。



接客のコツを学ぶ！

接客のプロでもあるレストランのマネージャーさんから、素敵な笑顔や気持ちのいいあいさつ、料理の説明の仕方を学びました。



試食会当日は、新聞社の方も取材に。習ったことを思い出して、自分たちの思い入れを説明することができました。

実際のレストラン会場で実施した試食会では、たくさんのお客様に、子ども達が考えた料理を食べていただきました。また、お店での販売会として準備したピーマンは、完売しました。子ども達は試食会や販売会を通して、接客や販売する楽しさを味わうこともできました。



要田小学校の実践に見える「目からウロコ」

- ① 子ども達の思いをベースに、年の初めに学習計画を作成し、実践する。
- ② 子どもへの問いや願いをきっかけにして、地域人材を結びつける。
- ③ 国語科や社会科など、教科と総合的な学習を関連付けて学びを広げる。

その他、紹介できなかった要田小学校の取組はホームページでも紹介されています。ぜひご覧ください。

<https://tamura.fcs.ed.jp>

発行・編集 福島県教育庁県中教育事務所総務社会教育課

TEL:024-935-1488 HP: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70210a/>

